

2022年度 活動報告概要

1. 活動概要

- 1) 第1回学術技術交流会(2022/6/7:@静岡) 参加(竹内、渡邊)
- 2) 第2回学術技術交流会(2022/9/12:@都内) 欠席
- 3) 第3回学術技術交流会(2022/11/8:@都内) 参加(竹内)
- 4) 総会・第4回学術交流会(2022/3/24:@都内) 参加(竹内)

2. 外部発表(2022年度)

以下の外部発表を実施。

- 1) 大型疲労試験機とそのデータ事例:資源素材 2022(福岡)ワイヤロープ分科会
- 2) 永久磁石式全磁束法による非破壊検査:資源素材 2022(福岡)ワイヤロープ分科会
- 3) クレーン用ワイヤロープの断線検知装置:資源素材 2022(福岡)ワイヤロープ分科会
及び日本機械学会 2022年度年次大会

3. 賢材へ取組み

弊社はワイヤロープをはじめとするロープ・ケーブル類の総合メーカーとして、「Total Cable Technology」を掲げ、材料、製造、点検・調査・補修などの周辺技術まで広く製品・サービスを提供している。

昨年8月、ワイヤロープを東洋で初めて製作し始めた地(江東区)に本社を移転しました。新本社のある場所は創業者である澁澤栄一翁の住まいがあった場所でもあります。社是である「共存共栄」は、SDGsと良く合致しており、初志にかえて、企業活動を進めております。

製品としてはタイヤの補強材であるタイヤコード(素線径0.2mm程度)用の細いものから、太いものでは吊り橋用ケーブル(ケーブル径約1m)があり、幅広い分野で社会に貢献しています。

インフラの老朽化対策として開発を進めている、橋梁用ケーブルの診断技術開発では、全磁束法という非破壊検査方法が実用化されているが、さらなる装置の軽量化や作業性改善により、適用範囲の拡大を進めている。さらに、導入張力を同じ装置構成で評価できる方法も開発中であり、これにより張力、劣化状況を同時に評価することが可能になる。

一方、SDGsに伴い、カーボンニュートラルへの取組みを強化しており、今後も多岐にわたって、ケーブル(ロープ)に関わる技術や製品とモノづくり両面において、安心・安全な社会に貢献していく所存である

また、関連会社の日本特殊合金では、弊社の鋼線の塑性加工を支える工具である、超硬ダイスの開発に始まり、研究開発を続け、超硬合金では最高強度の製品を開発しています。昨年には超硬合金の新たな適用分野として、一般消費者向けの包丁の素材開発を行い、クラウドファンディングサイトのMakuakeで「KISEKI」の包丁として発表され、予定数を早期に完売し、部門1位の記録を作っています。

地味な会社ではありますが、今後ともよろしく申し上げます。

以上